

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年10月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105115
法人名	有限会社 鹿児島メディカル
事業所名	グループホーム あらた
所在地	鹿児島県鹿児島市荒田一丁目51番14号 (電話) 099-252-2561
自己評価作成日	平成26年9月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ご利用者の意見を尊重するパーソン・センタードケアを目指し、その人らしい暮らしを大切にしている。
- ・ご利用者の健康管理に予防の視点から適切に取り組んでいる。
- ・ご利用者を支える環境としてご家族の力を積極的に受け入れている。(ご家族の面会、行事などの参加も多い)
- ・ケアの質向上に不可欠である外部研修に職員は交代で参加。内部研修は年間計画を立て、職員が交代で資料を準備し講師も兼ねる。認知症について深く理解し、BPSD(心理、行動障害)を発症しないケアが実践されている。
- ・地域との連携は小学校、地域住民などへ認知症理解の普及活動を継続的に実施し信頼、協力関係が構築されている。災害時など「地域の力」を得て強固な緊急連絡体制が確立されている。
- ・近隣の事業所や地域住民と協働して「あらたの地域と歩む会」に尽力し活動参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者個々人が人としての習慣を楽しみながら、自分らしく自由な生活を送っている。
- ・当事業所は上荒田の利便性の高い住宅地域に立地している。周囲には公園や小学校・中学校・大学・医療機関・市電停・バス停などがあり、散歩や買い物の際には挨拶や会話をし、いろいろな人や機会にふれながら生活できる環境にある。
- ・自治会に加入し、地域行事に積極的に参加している。近隣の事業所と地域住民と協働して「あらたの地域と歩む会」で活動し、認知症の講演依頼や相談を受け、助言などをしたりして認知症対策や介護支援の情報発信の場となっている。
- ・協力医療機関の定期的往診や緊急時の対応、医療連携体制ができており、利用者や家族にとって安心できる環境にある。
- ・法人として手厚い人員体制を整え、職員育成にも力を入れている。職員のスキルアップも積極的に推進し、職員の働く意欲の向上につなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に地域とのつながりを大切にすることを掲げ、毎朝斉唱しその重要性を全職員が認識し日々のケアに実践するよう努めている。	地域との関連性を重視した理念は、事業所内に掲示し毎朝唱和している。会議等で確認し合っ共有し、具体的なケアについて支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は孤立することなく地域の一員として地域清掃活動にも参加、校区の小学生や幼稚園、保育園の子ども達との交流も開設時から続いている。日常の散歩では地域住民との交流を持つ事ができている。	町内会に加入し、地域の行事や清掃活動に積極的に参加し、散歩や買い物際には挨拶や会話を交わしている。地域住民の認知症の相談を受けたり、「あらたの地域と歩む会」の協力や相互関係を築いている。保育園や幼稚園・小学校の子供たちとの交流・職場体験学習やボランティアの受け入れなども行っている。	
3	0	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	小学校、地域住民に認知症サポーター養成講座を開催し、地域ケア会議で認知症についての話や相談を受けるなどしている。地域の福祉委員として活動し、地域と連携して「あらたの地域と歩む会」の発足に尽力し参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では利用者の日常生活の状況や施設の課題など毎回テーマを設定し、委員より幅広い意見をいただきケアサービスのヒント、向上に活かしている。議事録は職員に回覧し常に内容を共有してサービスの向上に生かしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。毎回テーマを決めて、事業所の運営状況を報告したり、外部評価の報告を行い、意見交換をしている。参加者から提案や意見を聞き、意見を支援に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>事業所の運営に関する事、運営規定の改正、自己・外部評価を届け、市との密な連携を図っている。市からの介護相談員を受け入れご意見等をいただき協力関係を築いている。</p>	<p>市の担当者とは、申請書類の提出時や電話で相談したり、日頃から情報を交換して、アドバイスを貰っている。市主催の研修会にも積極的に参加している。介護相談員の受け入れもしている。運営推進会議などを通じ、ケアサービスの取り組み、課題など行政からのアドバイスをもらい協力関係を築き連携を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>内部・外部研修で基準も含め拘束が及ぼす影響を理解し、利用者の尊厳ある生活を問いながら、開設以来身体拘束ゼロである。定期的に委員会を開催し、ミーティングを通して職員の意識定着を図っている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会で定期的な勉強会を実施し、外部研修にも参加して、身体拘束ゼロの支援を行っている。日中、玄関の鍵をせずに、自由に外に出たい人がいても、職員の連携で一緒に付き添い出入りできるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部、外部研修において職員は高齢者虐待についての知識を深め、心理的虐待については事例を通して日常のケアを振り返りみつめ直す機会を得ている。虐待防止委員会は定期的に委員会を開催、ミーティングで報告することにより職員の意識向上を図っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>内部、外部研修を通し権利擁護が利用者を中心とするケアにつながることを職員は理解している。現在制度を利用する対象者は居ない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書を重視し、医療連携体制、料金や支払い方法、リスクに対して十分な説明を行い利用者や家族が理解・納得し、安心して契約の締結に至っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談窓口を設け、利用者・家族が気軽に意見を書く事ができる意見箱も設置している。運営推進会議にも家族に参加していただき、意見をいただいている。ご意見・ご要望などに対する対応策を委員会で明確にし、開示している。</p>	<p>利用者からは思いや意見が気軽に出やすいように、アンケートや日々の生活の中で聞いている。家族からは面会や家族会・運営推進会議などで状況報告などをする中で、思いや意見を聞き、運営に反映させるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月一回開催される全体ミーティング・ケア検討会などで職員の思いや意見を述べられる環境を作っている。運営側と現場が一体となり、現場の声が反映される環境にある。</p>	<p>代表者や管理者は職員とのコミュニケーションを図り、ミーティングや会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。管理者への相談や質問などは、気軽にいつでも話しやすい雰囲気になっている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>就業年数に応じた昇給をはじめ資格手当など職員の向上心につながっている。定時に終業でき有給休暇も無理なく取得でき働きやすい環境が整備されている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人材育成担当者により新人教育・フォローアップ研修など、段階に応じた教育、研修プログラムを年間で作成し実施している。研修内容は全体ミーティング時などを活用し報告、様々な知識の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム教会に加入し他事業所との意見や情報交換を行い、ホームの環境の改善、ケアの質向上へとつなげている。年間多くの実習生を受け入れ実習後の気付きを置き土産に、これらもケアの質向上へとつなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族や入居以前の事業所からの情報収集に努め職員間で情報を共有し安心して暮らしていただけるよう支援している。24時間生活変化シートを用いて本人の生活スタイルをアセスメントしながら対話により本人の思いを探り安心できる関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族とも個別で向き合い、不安や悩みなど家族の立場になり考え受けとめ、信頼関係を築くことを大切にしている。家族の満足度も高められるよう、事業所全体の課題として取り組んでいる。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前の面談で本人、家族の不安や問題を聞き、今何が一番必要なのか優先順位を見極め現状維持、QOLの向上につながるサービス提供を行なっている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご利用者が人生の大先輩であることを念頭に置き、アドバイスをいただきながら行事の内容や飾り、食事の献立と調理方など様々なことを分かち合いながら日々の生活を共にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が協力してケアにあたることの有用性を家族へ説明し、こまめに近況報告を行ったり、来訪しやすい環境を作るなどして本人の笑顔をいっしょに喜びあえるような関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が大切にされてきた馴染みのある地域の友人・知人が気軽に来訪できる雰囲気、また通い慣れた美容室を利用できるなどの環境作りを大切にしている。来訪時はゆっくりとくつろいでお茶を飲んでいただく環境づくりをしている。	今までの馴染みの人間関係を把握して、いつでも地域の友人や知人など気軽に面会できる雰囲気作りに取り組んでいる。家族の協力で馴染みの理美容院を利用したり、外食や墓参なども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が共に助け合い、話題を通して笑いあえる環境作りを大切にしている。個々に応じたコミュニケーションを工夫し、利用者同士が楽しく団らんできるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、病院や別の施設で生活されている利用者を利用者、職員でお見舞いに行ったり家族の相談も快く受けている。また、退居された利用者、家族が来訪された際はゆっくりと思いで深く過ごしていただける環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者個々の思いを真摯に受け止め、その人らしい暮らしを支援している。利用している中で、の要望や思いをアンケートや日常会話などで聞き取り支援に活かしている。自分の思いを言葉に出来ない方はサインや表情などで受け取り、家族からの意向や思いを聞き、検討し、支援へつなげている。	日常の会話や行動・表情・しぐさ・動作などで個別に把握し、利用者が少しでも安心して、暮らしやすい様子を把握している。把握が困難な場合は家族の意見やアンケート・職員間で話し合い、本人中心の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツール（センター方式）を活用し、生活歴や馴染みのある暮らし方など家族に記入してもらうことで、「その人らしさ」を知ることを重視し、生活の質へとつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、職員は情報を共有し、その人らしく暮らしていただけるよう努めている。又、毎日の状態の記録も欠かさずに行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、家族の意向、主治医、職員の意見を反映し、アセスメント・モニタリングを繰り返し、毎月のケア検討会を通して利用者本位のより良い暮らしを支えていく介護計画を作成している。	本人や家族の意向を確認し、主治医や職員の意見を反映し、ケア会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。3～6ヶ月毎にモニタリングを実施し見直している。状況が変化したときは現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス実施記録と合わせ、ケアチェック表、健康記録に気づきや工夫を記入し、職員間の情報共有を図りケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、マッサージ利用等、個々に応じた柔軟な対応ができており、利用者・家族のその時々ニーズにこたえる事ができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番、民生委員、長寿安心相談センター、地域子ども達など多くの訪問があり利用者との馴染みの関係となって安心して楽しい暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医への受診が継続的に出来ている。又、専門医を使用するときも利用者、家族の希望を重視し適正で質の高い医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関の月1回の訪問診療がある。他科受診は家族同行となっているが、不可能な場合は職員が代行している。緊急時の対応など連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム内に看護師を配置、協力医の看護師の訪問もあり医療面、予防における看護師の役割が機能している。介護面でも看護師の専門性が発揮され、介護職との連携も良好。日常の健康管理も適切に行われている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の適切な対応が図られ、入院中職員が見舞いを兼ねて訪ね家族や病院関係者から情報を得て、早期退院できるよう尽くしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携加算に基づき重度化、看取り指針を定めサービス開始時に本人、家族への説明、同意を得ている。医療ニーズが高まった時は主治医より家族への説明、同意を得ながら密な情報を共有できる体制が確立されている。</p>	<p>重度化や看取りに関する指針があり、契約時に説明し同意書ももらっている。状況変化に伴い繰り返し話し合い、意向を確認し、主治医と連携して支援している。職員全員がその方針を共有している。看取りの経験もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ホームに設置してあるAEDの取り扱いについては業者からの説明が定期的に行われている。急変時などの対応は適時看護師からの専門的指導も受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月防災訓練を各階で実施、年に2回消防署の協力を得て日勤帯と夜勤帯の設定で訓練を実施している。その際地域住民の参加もいただき、火災通報体制など地域力活用の体制も整っている。</p>	<p>年2回消防署の協力のもと、昼夜間想定避難訓練を実施し、毎月防災訓練を行い、具体的な災害を想定しながら、いざという時に避難誘導を慌てないように取り組んでいる。防空頭巾などを作成し、スプリンクラーや防災設備も整っている。地域住民との協力体制もできている。災害時の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービスを提供する上で大切にしなければならないプライバシー保護と接遇について内部研修を行い、一人ひとりの人格を尊重し利用者の尊厳を大切にしている。	尊厳と人権を守ることは対人援助の基本であるとして、トイレ等の誘導時の言葉かけには注意している。研修を積極的に行い、人格とプライバシー保護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に思いを表現できる関係性を構築し、自分の言葉で表現できない方はサイン、シグナルを感じ取り自己決定を大切にしている。職員は権利擁護が守られた生活が利用者本位の生活につながると認識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるもののご利用者一人ひとりが自分のペースで過ごせるよう、また本人の希望に沿った暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日々の身だしなみはご利用者と職員で共に行っている。出張理容サービス、美容学校の学生による誕生日のご利用者へのヘアメイクのサービスなどおしゃれを楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の大きな楽しみのひとつである食事に食べたいものを取り入れるようにアンケートの結果や旬のものを献立に反映させている。利用者と職員と一緒に食事をし準備・片付けも無理のないよう一緒に行っている。	嗜好調査を行い一人ひとりの好みを聞き、旬のものを取り入れ、嗜好に配慮した献立を工夫している。利用者は可能な範囲で準備や盛り付け・後片づけを職員と一緒にいき、テーブルで食事を囲んでいる。家族からも野菜の差入れがあり活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を十分に摂る事を重視し個々の食事形態にも配慮している。食事、水分摂取量を記録し個別支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを欠かさず、個々に合わせた口腔ケアを行い週2回、夜間入れ歯洗浄剤で洗浄している。歯科衛生士(職員)による口腔ケア指導の機会も日常にある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時、1ヶ月程排泄パターンをアセスメントし個々の排泄リズムを把握、行きたい時に行くことができるよう支援している。尿意・便意を伝えられない方は時間毎排泄支援を行っている。	個々人の排泄パターンを把握し、周りに気づかれないように声かけしてトイレ誘導している。オムツを減らす取り組みや排泄の自立を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響について看護師によるアドバイスが随時ある。個々に応じた予防策(水分摂取、食物繊維の多い食事、乳製品)を摂り便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴日は決まっているが個々の希望に合わせて無理強いない、本人の好みに合わせた入浴支援を行っている。	入浴は基本的には週3回であるが、体調や希望に添った入浴ができるように対応している。ゆず湯など使用したりして、入浴を楽しんでいる。失禁なども含めて時間に関係なくシャワー浴を含む入浴支援をしている。利用者の思いに合わせた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の希望、体力に合わせて短時間の午睡をとっていただく。適度な活動を日中に行い生活リズムを整え、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に確認できる健康記録ファイルへ薬剤情報を綴じ、利用者の薬と既往症との関係、副作用について理解するよう努めている。薬剤師との連携も確立されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者の得意とする事ことを発揮できるよう家事参加、日記の記帳、色塗り、新分読みなど個々に合わせた支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候をみて近くの公園などに散歩に出かけられるよう支援している。又、年間行事計画で外食し家族も一緒に参加して楽しみを分かち合っていただけのような支援している。悪天候により十分な外出支援ができていないこともある。	日常的には一人ひとり希望を聞いて近隣の公園に散歩やドライブをかねた買い物などに出かけている。地域の行事などへも出向き地域の人達と交流も行なっている。計画を立てて花見や外食など家族と一緒に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人の力量に応じ家族と相談しながら本人が支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話、家族への電話はいつでも利用できる環境にある。家族からの贈り物へのお礼の電話や手紙など本人の希望する時に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく清潔で、テーブルには季節の花が飾られている。トイレや浴室は清潔を心掛け、音や光などが認知症ケアにおいて不安や混乱を招く要素になる事を職員は理解し環境作りを工夫し、居心地よく過ごすことができている。	共用空間は明るく温度や湿度などの空調整備がなされ、窓の開放もでき換気や採光に配慮されている。掃除が行き届き清潔である。利用者と職員が一緒に作成した作品や写真など貼付して生活感や季節感を取り入れている。ゆったりしたソファで居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士会話の弾む居場所を提供できるよう工夫している。利用者同士で洗濯物たたみやテレビドラマを楽しむ場をつくるよう心掛けている。	/	/
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、利用者と家族が相談して利用者が使い慣れた寝具、家具、仏壇などを居室へ置き、安心して居心地の良い生活を送ることができるよう工夫している。	ベッドや整理ダンスは備え付けである。本人や家族と相談しながら、家具や仏壇・写真など、できるだけ自宅にいたときに近い状況を作り、本人が使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、浴室、居室、廊下などに手すりを設置し、居室入口には表札をかけ自立した生活を送ることができる環境づくりをしている。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない